

音 楽

目 次

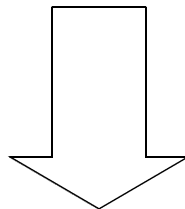
1	音楽科改訂のポイント	1
2	音楽科の目標のポイント	2
3	音楽科の内容のポイント	4
4	各学年の指導のポイント	6
5	音楽科の指導計画作成上のポイント	10
6	指導例	11

1 音楽科改訂のポイント

改善の基本方針

- 音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。
- 子どもの発達段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、歌唱、器楽、創作、鑑賞ごとに指導内容を示すとともに、小・中学校においては、音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。
- 創作活動は、音楽をつくる楽しさを体験させる観点から、小学校では「音楽づくり」、中・高等学校では「創作」として示すようにする。また、鑑賞活動は、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにするとともに、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力の育成を図るようにする。
- 国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。

改善の具体的事項



- ・ 音楽のよさの感受
- ・ 思いや意図をもった表現
- ・ 音楽全体を味わう鑑賞力の育成
- ・ 音楽文化の理解
- ・ 豊かな情操を養うこと

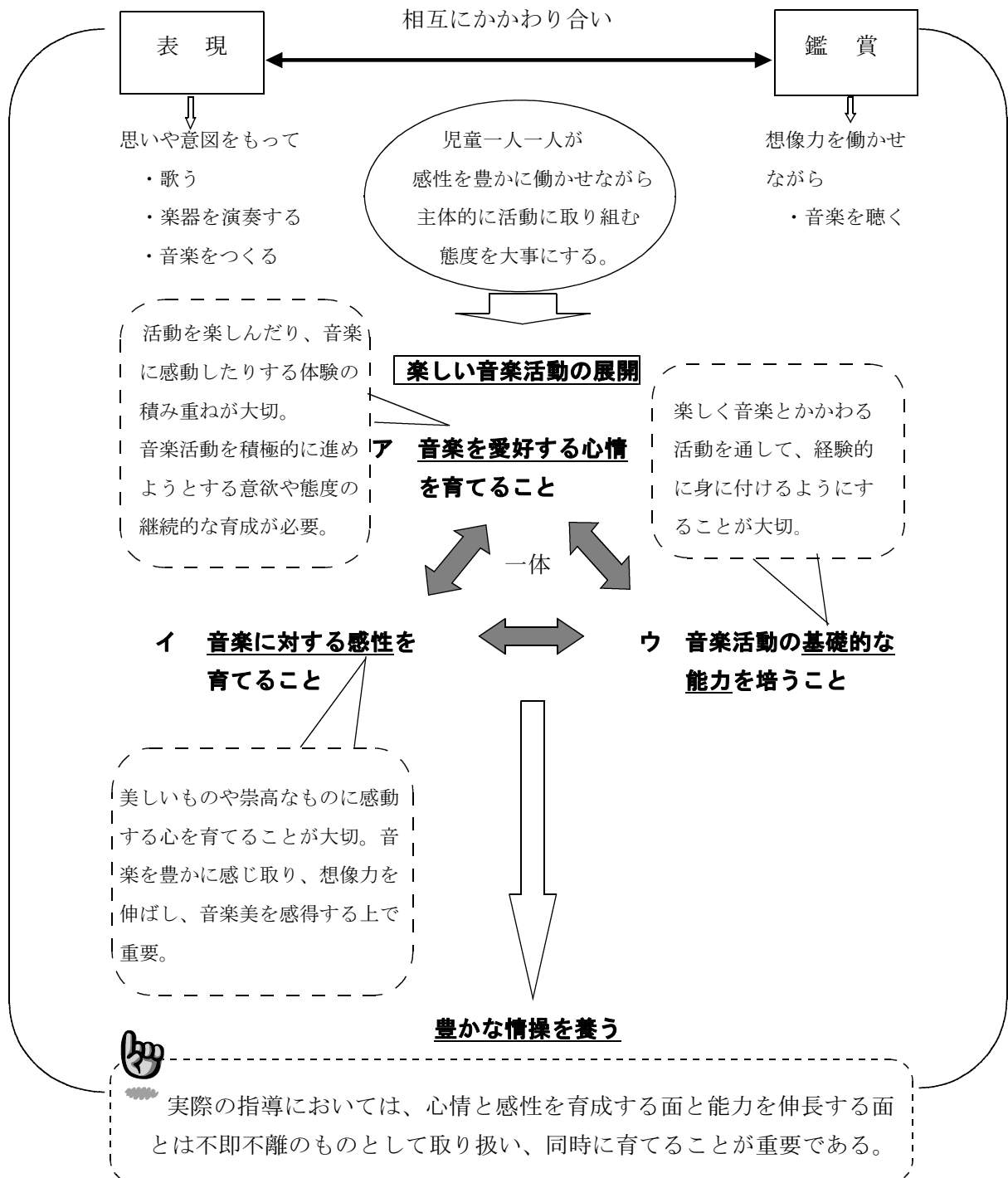
表現領域			鑑賞領域
※二領域の指導内容の関連付けを明確にする			
「歌唱」 ・ 共通教材の扱いの充実 ・ 協同する喜びを感じる指導の重視	「器楽」 ・ 協同する喜びを感じる指導の重視	「音楽づくり」 ・ 音を音楽に構成する過程の重視	・ 「我が国の音楽」を中学年にも新たに位置付ける ・ 能動的で創造的な鑑賞の活動へ改善
〔共通事項〕 ※音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組み、音楽に関する用語や記号などを音楽活動と関連付けながら理解するようにする			

2 音楽科の目標のポイント

(1) 教科の目標について

基本的にはこれまでの理念を引き継いでおり、教科の目標は次のとおりである。

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。



(2) 学年の目標

学年の目標及び内容は、〔第1学年及び第2学年〕（低学年）、〔第3学年及び第4学年〕（中学年）、〔第5学年及び第6学年〕（高学年）のように2学年まとめて示している。

これは、表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性、音楽の諸能力が徐々に身に付いていくという、音楽の学習の特性を考慮したものであり、さらに、学校や児童の実態等に応じた弾力的な指導を効果的に進めることができるようにしたものである。

学年の目標は、各学年とも3項目である。

	低学年	中学年	高学年
(1) 音楽活動に対する興味 ・関心、意欲を高め、音楽を生活に活かそうとする態度、習慣を育てること。	・楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。	・進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。	・創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
(2) 基礎的な表現の能力を育てること。	・基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。	・基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。	・基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
(3) 基礎的な鑑賞の能力を育てること。	・様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。	・様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。	・様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。



○低学年の指導のポイント

- ・児童が歌ったり楽器を演奏したりするなどして楽しめるような魅力ある教材や楽しんで聴くことができるような魅力ある教材を取り上げ、児童が音楽の楽しさを感じ取れるような学習活動を展開し、音楽に対する興味・関心をもつようにすることが大切である。
- ・音楽に合わせて体を動かすことを喜ぶ傾向が見られることに着目。児童が夢中になって取り組むことができるような活動を工夫して、表現の能力を楽しく身に付くようにする。
- ・音楽を感覚的にとらえる傾向が見られることに着目。音楽を形づくっている要素のかかわり合いに意識を向けた鑑賞活動を進める中で、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなどに感覚的に反応し、音楽やその演奏の楽しさに気付くようにする。

○中学年の指導のポイント

- ・集団で協力する活動を好む傾向がみられることに着目。表現の仕方を工夫し、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取りやすい魅力のある教材を取り上げ、児童がそれらを積極的に感じ取れるように学習活動を展開し、音楽活動への意識を高めていくようにすることが大切である。
- ・聴唱や聴奏の能力を伸ばし、視唱や視奏によって旋律の動きや旋律同士のかかわりを意識できるようにすることを通して、音楽表現を工夫する能力を身に付けるようにする。また、音を音楽に構成する活動を通して、音楽づくりの能力を身に付けさせるようにする。
- ・知的側面の成長に伴う理解力や表現力の向上に着目。音楽を形づくっている要素のかかわり合いに意識を向けた鑑賞活動を進める中で、音楽から感じ取ったことを、言葉や体の動き、音楽などで表して、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの働きを把握するようにする。

○高学年の指導のポイント

- ・論理的な思考力の高まりや美へのあこがれや探究心の高まり、社会性の発達に着目。児童が自己の思いや意図をもって表現することに加え、友達と共に考えるなどして楽曲の理解を深め、それを自分たちの音楽表現に生かす能力を身に付けるようにする。
- ・和音や和声に対する感覚が著しく発達する時期であることに着目。いろいろな形態の合唱や合奏などを通して、音の重なりや和声などの響きによる様々な特徴を感じ取ったり、音楽づくりの活動を通して旋律に合う音や和音を探ったりするような活動を行う。
- ・楽曲の構造に意識を向けた鑑賞活動を進める中で、楽曲の特徴や演奏のよさ、美しさについて感じ取ったことを、言葉や体の動き、音楽などで表して、いろいろな感じ方があることを理解するようにする。

3 音楽科の内容のポイント

(1) 内容の構成について

音楽科の内容は、「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕で構成している。

「A表現」の指導項目では、歌唱、器楽、音楽づくりごとの指導内容と、表現で取り扱う教材が示されている。「B鑑賞」の指導項目では、鑑賞の指導内容とともに、鑑賞で取り扱う教材が示されている。今回の改訂で新たに設けられた〔共通事項〕では、表現及び鑑賞のすべての活動において、共通に指導する内容が示されており、表現及び鑑賞の能力を育成する上で共通に必要なものである。

A 表現			B 鑑賞
歌唱	器楽	音楽づくり	
(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。	(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。	(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。
ア 聴唱・視唱すること イ 音楽を感じ取って歌唱の表現を工夫すること ウ 楽曲に合った表現をすること エ 声を合わせて歌うこと	ア 聴奏・視奏すること イ 音楽を感じ取って器楽の表現を工夫すること ウ 楽曲に合った表現をすること エ 音を合わせて演奏すること	ア 音の様々な特徴に気付くこと（低学年） 音楽づくりのための発想をもち即興的に表現すること（中学年及び高学年） イ 音を音楽へと構成すること	ア 楽曲を全体にわたって感じ取ること イ 楽曲の構造を理解して聴くこと ウ 楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること
(4) 表現教材は次に示すものを取り扱う。			(2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。
ア 歌唱教材選択の観点 低学年：共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲 中学年：共通教材を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う楽曲 高学年：共通教材の中の3曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う楽曲 イ 器楽教材選択の観点 低学年：既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低音部などを加えた楽曲 中学年：既習の歌曲教材を含めて、簡単な重奏や合奏にした楽曲 高学年：楽器の演奏効果を考慮し、簡単な重奏や合奏にした楽曲 ウ 歌唱共通教材 低学年、中学年ではそれぞれに示された4曲すべてを、高学年では4曲中3曲を含めて扱う。			ア、イ、ウともに鑑賞教材選択の観点 ※「4 各学年の指導のポイント」の項目を参照のこと
【共通事項】 (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。 ア 音楽を形づくっている要素を聴き取ることとその働きを感じ取ること イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を理解すること			

(2) 【共通事項】の内容について

【共通事項】は、表現及び鑑賞の各活動を通して指導するものである。指導に当たっては、表現及び鑑賞の各活動の中で指導し、【共通事項】に示す内容のみを扱う学習にならないように配慮することが必要である。

アは、音楽を形づくっている要素のうち、(ア)の「音楽を特徴付けている要素」及び(イ)の「音楽の仕組み」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることについて示している。

(ア)の「音楽を特徴付けている要素」は、各学年で以下のような内容を示している。

低学年…音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなど

中学年…音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ、音の重なり、音階や調など

高学年…音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ、音の重なり、音階や調、和声の響きなど

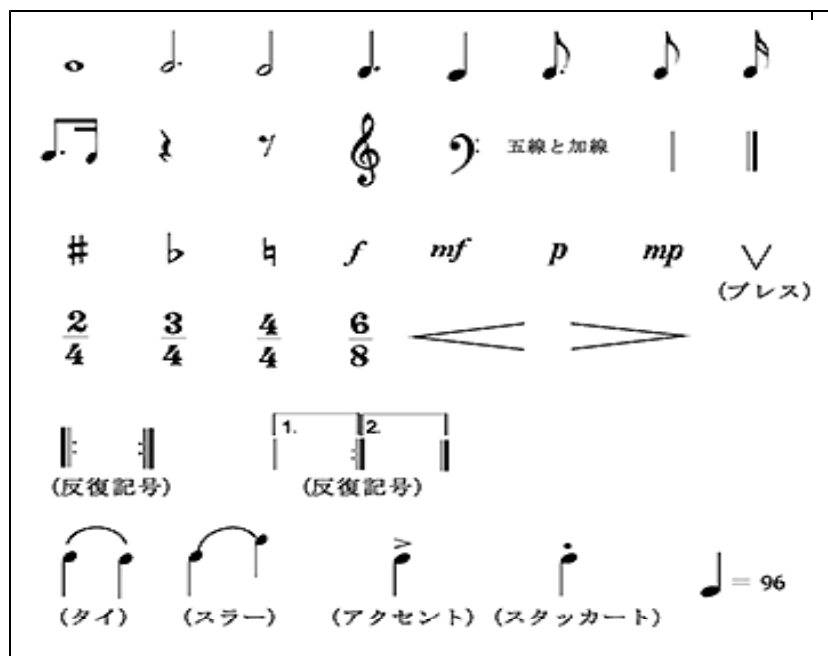
(イ)の「音楽の仕組み」は、各学年で以下のような内容を示している。

低学年…反復、問いと答えなど

中学年…反復、問いと答え、変化など

高学年…反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係など

イの「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を理解すること」では、下に示した音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を、児童の学習状況を考慮しながら音楽の学習活動の中で実際に生かすことのできる知識として理解することの重要性を示している。



- 単にその名称や意味を知ることだけでなく、表現及び鑑賞の様々な活動の中で、児童がその有用性を実感しながら意味や働きを理解し、表現や鑑賞の各活動に用いていくようにすることが重要である。

4 各学年の指導のポイント

(1) 第1学年及び第2学年の指導のポイント

A表現

- ① 歌唱、器楽の活動を通して

- ア むやみに大きな声で歌ったり、自分勝手な速度で演奏したりしないで、教員や他の児童などの演奏に耳をよく傾け、繰り返し模唱、模奏するようにする。また階名による模唱や暗唱、リズム唱やリズム打ちに親しみながら、音程感やフレーズ感、リズム感を十分に育てるようにすることが大切である。
- イ 楽曲を聴いて感じ取ったことや想像したことを言葉や体で表現したり友達と伝え合ったりしながら、表現を工夫する楽しさを味わうようにすることが大切である。
- ウ 自分の歌声や楽器の音色に注意して演奏する習慣を身に付けながら、ていねいな歌い方、きれいな発声や発音に気付いたり楽器の音色のよさや面白さに気付いたりすることが大切である。
- エ 正しい音程やリズムなどに対する感覚を身に付けるとともに、友達の歌声や音、伴奏の響きを聴きながら、心を合わせて演奏する楽しさを感じるようにすることが大切である。
- ② 音楽づくりの活動を通して
- ア リズムの模倣や言葉の抑揚を短い旋律にして歌うなどの音遊びを通して、音の面白さや豊かさを味わい、音の特徴に気付く能力を育成する。
- イ 音楽の仕組みを手掛かりとして、それぞれの音を関連付けて楽しみながら一つのまとまりを形づくるようにしていく。その際には、音楽をつくることに対する考えや願いをもつようにして、その過程を楽しむような指導が大切である。
- ③ 表現教材について
- ア 親しみやすい内容の歌詞やリズム、旋律の教材を選択する。
- イ 低声部は、主音、属音を中心とした楽曲を取り上げる。
- ウ 共通教材の4曲すべてを扱う。



- 技能的、分析的な指導にならないように留意する。音楽を楽しむ気持ちの育成が大切。

B鑑賞

- ① 鑑賞の活動を通して
- ア 楽曲全体を味わい、音楽を聴くことに親しみをもつようにすることが重要である。
- イ 音楽を形づくっている要素に興味・関心をもち、注意深く集中して聴く習慣を定着させる。
- ウ 音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で、身近な相手に伝えようとする気持ちを育てることが大切である。
- ② 鑑賞教材の選択について
- 我が国や諸外国の音楽をはじめ、身近に感じることのできる親しみやすい楽曲を選択する。その際、ア、イ、ウの観点がかかわり合っていることに配慮する。

(2) 第3学年及び第4学年の指導のポイント

A表現

- ① 歌唱、器楽の活動を通して

ア リズムや音程に注意し、旋律の表現を豊かにすることを旨として聴唱及び聴奏する。また、楽譜と音との関連を意識した学習指導を展開し、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の指導も併せて行い、音楽の流れを感じ取りながら楽しく読譜することに慣れさせることが大切である。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って、表現に対する自分の明確な考えや願い、意図をもって演奏させることが大切である。

ウ 楽曲にあった発声や発音、曲想にふさわしい演奏の仕方を工夫し、表現の幅を広げるようにすることが大切。和太鼓を含めた和楽器、諸外国の打楽器を学習内容に応じて適切に取り入れる。

エ リズムや主な旋律、副次的な旋律や和声が生み出す響きを感じ取って演奏したり、気持ちを合わせて演奏しようとしたりする意欲を育てることが重要である。

② 音楽づくりの活動を通して

ア 演奏の仕方による響き方の違い、材質の違いによる音の特徴や雰囲気の違いなどに気付きながら、「これらの音をこうしたら音楽になるかな」といった考えをもち、直感的な選択や判断で表現させることが大切である。

イ 「反復、問いと答え、変化」などの音楽の仕組みを生かし、「このような音楽にしよう」といった意図をもって試行錯誤しながら創意工夫する活動を楽しむようにさせることが大切である。

③ 表現教材について

ア 内容や音域が中学年に適したもので、豊かな響きが味わえる、簡単な合唱曲を選択することが重要である。

イ 和音の響きを感じ取りやすく、低音の充実した重奏や合奏曲などを取り上げる。

ウ 共通教材の4曲すべてを扱う。



○ 部分的、分析的な指導にならないように留意する。楽曲全体を味わうようにすることが大切。

B鑑賞

① 鑑賞の活動を通して

ア 楽曲が表す情景や様子などを具体的なイメージを思い浮かべることだけでなく、楽曲の特徴を手掛かりとしながら全体を見通して、曲想とその変化を感じ取るようにさせることが大切である。

イ 音楽の仕組みの働きに着目して、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとのかかわり合いに気を付けて聴かせることが大切である。

ウ 音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で伝え合い、他の人の感じ方のよさを認め合うことが重要である。

② 鑑賞教材の選択について

いろいろな種類の音楽、いろいろな演奏形態に親しみ、音楽の聴き方や感じ方を広げられるように、児童にとって親しみやすく、音楽のよさ、面白さを感じ取ることのできる楽曲を選曲する。

(3) 第5学年及び第6学年の指導のポイント

A表現

① 歌唱、器楽の活動を通して

ア 音楽を形づくっている要素や表現の仕方などについて、課題意識をもって聴くようにし、豊かな表現を目指した聴唱、聴奏へと導くことが大切である。その際、楽譜と音との関連を意識しながら音楽の流れを感じ取り、楽しく読譜することに慣れさせるようにすることが大切である。

イ 表現に対する自分の明確な考えや願い、意図をもって演奏させることが大切である。その際、児童が自ら考え、試行錯誤しながら主体的に活動することが大切である。

ウ 楽曲にあった歌い方、曲想にふさわしい演奏の仕方を工夫し、表現の幅を広げるようにすることが大切である。我が国の音楽や郷土の音楽、諸外国の音楽に対する関心を高めるように配慮することが必要である。

エ 各声部やパートの役割を理解し、全体の中で自分の演奏を調和させていくことが必要である。心を合わせて演奏しようとする意欲を育てることが大切である。

② 音楽づくりの活動を通して

ア これまでに経験してきた様々な音楽表現を振り返り、その中から自分が即興的に表現するために役立つような発想を得たり、その発想を即興的な表現に生かす方法を考えたりして表現させるようにすることが大切である。

イ 音楽の仕組みを生かし、つくる音楽の形やそれに至る方法を考えるなど、見通しをもってまとまりのある音楽をつくらせることが大切である。

③ 表現教材について

ア 内容や音域が、高学年に適したもので、豊かで美しい響きのハーモニーを十分に味わうことができる合唱曲を取り上げることが必要である。

イ 楽曲の構造や楽器の組合せなどが児童の実態に即している楽曲を選択する。その際、和音の取扱いについては、I、IV、V、V₇などを中心とし、低音の充実を考慮することが求められる。

※注 「I」はドミソ、「IV」はファラド、「V」はソシレ、

「V₇」はソシレファ の和音を指す。

ウ 共通教材の4曲の中から3曲を含めて扱う。



- 作曲者の意図を汲み取るとともに、自分の思いや意図をもって音楽活動を楽しむようにすることが大切である。また、和声の響きを味わうようにすることが重要である。

B鑑賞

① 鑑賞の活動を通して

ア 楽曲の特徴を手掛かりとしながら楽曲全体を見通し、音楽の流れの中で生み出されている曲想の変化や、変化の特徴を感じ取るようにすることが大切である。

イ 音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みの働きに着目して感じ取り、それを理解して聴くことが大切である。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことの理由を、音楽の中から見付けて、自分の意見や感想をもつようにすることが大切である。

② 鑑賞教材の選択について

いろいろな種類の音楽への興味・関心をもち、表現の豊かさを味わうことのできる楽曲を選択し、音楽の聴き方や感じ方を深めるようにすることが大切である。

5 音楽科の指導計画作成上のポイント

(1) 指導計画作成上の配慮事項

① [共通事項] について

[共通事項] は、表現及び鑑賞のすべての活動において共通に必要な指導内容を示している。指導計画作成に当たっては、年間を通して継続的にこれらを各活動の中に位置付けることにより、指導の関連を図ることが必要である。

② 高学年の内容「A表現」の表現形態について

児童が表現形態を選んで学習を進めることのできる題材を用意するとともに、弾力的な指導ができるよう多様な教材を複数用意する。児童の主体的な学習活動を活発に進めるようにすることが大切である。

③ 国歌「君が代」の指導について

低学年では曲に親しみをもつようにし、みんなと一緒に歌えるようにする。

中学年では歌詞や楽譜を見て覚えて歌えるようにする。

高学年では国歌の大切さを理解するとともに歌詞や旋律を正しく歌えるようにする。

④ 生活科などとの関連及び第1学年における幼稚園教育との関連について

低学年の児童の発達の特性を生かし、生活科など他教科等との関連を積極的に図ったり、幼稚園や保育所、認定こども園における表現に関する内容などを参考にして低学年の題材を検討したりする工夫が必要である。

⑤ 道徳教育との関連について

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、音楽の共通教材は、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさ、夢や希望をもって生きることの大切さなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである。

音楽の年間指導計画作成に際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

(2) 内容の取扱いと指導上の配慮事項

① 音楽との一体感を味わうための工夫について

音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れることが大切である。指導に当たっては、体を動かすこと自体をねらいとするのではなく、音楽を感じ取る趣旨を踏まえた体験活動であることに留意する。

② 和音及び和声の指導について

音楽活動を進める中で、児童の音楽的な感覚に訴えるとともに、合唱や合奏、音楽づくりなど、具体的な活動を通して指導することが大切である。

③ 歌唱の指導について

移動ト唱法による階名唱を適宜用いる。

また、共通教材のほか、唱歌、わらべうたや民謡など、我が国の伝統的な音感覚（音階や音程感など）に根ざした音楽を、児童の実態に合わせて幅広い視野から選び、指導する。

変声期の児童への歌唱指導は安心して歌えるよう配慮することが大切である。また、変声期以前から「自然で無理のない、響きのある歌い方」について指導しておくことが重要である。

④ 器楽曲の楽器の選択について

技能的に無理のないものを、演奏効果のねらいや学校や児童の実態に応じて選ぶ。

⑤ 音楽づくりの指導について

児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。絵譜やグラフィックなど、記譜の仕方にも工夫をする。

⑥ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について

表現及び鑑賞の活動の中で、その意味や働きを理解したり、用いたりすることが重要である。それぞれの配当学年は示されていないが、必要な時点で繰り返し指導し、6年間を通して継続的に、徐々に身に付けさせるようにすることが大切である。

6 指導例

◆ 第2学年の指導例

(1) 題材

わらべうたであそぼう（全5時間）

(2) 題材について

第2学年の児童は、音楽に合わせて身体を動かしたり、歌ったりすることが好きである。感覚的に音楽をとらえる傾向にあるこの時期の児童には、楽しみながら拍のながれにのったりフレーズのまとまりを感じたりすることを身に付けさせたい。また、友達と共に活動することを通して、コミュニケーション能力も高めさせたいと考える。

そこで、以下の効果を期待してわらべうたを教材として取り上げることにした。

- ・わらべうたを歌いながら遊ぶことにより、楽しみながら自然に我が国の伝統的な音感覚に根ざした音楽に親しませることができる。
- ・ペア、少人数などいろいろな形態で活動でき、協同する喜びを味わわせることができる。
- ・拍にのって短いフレーズのまとまりをとらえさせることにより、拍子感を養うことができる。
- ・「反復」「問いと答え」などの音楽の仕組みを聴き取り、その面白さを感じ取らせる

ことができる。

なお、この指導例では、「反復」や「問いと答え」について、「くりかえし」や「と
いかけとおへんじ」という表現で示している。

(3) 目標

- ・我が国の伝統的な音感覚に根ざした音楽に親しみ、体全体でフレーズを感じ取りながら、友達と楽しく歌ったり遊んだりする。
- ・「反復」や「問いと答え」の仕組みに気づき、その面白さを感じながら楽しく表現する。

(4) 内容について

本題材は、〔第1学年及び第2学年〕の内容 A表現(1)のア、エとB鑑賞(1)ウの事項を、〔共通事項〕の事項ア(ア)の「拍の流れやフレーズ」、(イ)の「反復」、
「問いと答え」によって関連付けを図った取組である。

(5) 教材について

「奈良の大仏さん」「ろうそくのしん巻き」「いもむしころころ」

「あんたがたどこさ」「花いちもんめ」

出典 「大和のわらべうた」 著者・発行 奈良市音声館

「あんたがたどこさ」(2/4 23小節)	
1～8小節	問いと答え
9～12	} 旋律の繰り返し
13～16	
17～19	短い反復
20～21	再現
22～23	コーダ

「花いちもんめ」(2/4 28小節)	
1～4小節	} 旋律の繰り返し
5～8	
9～12	問い A
13～14	答え B
15～16	問い A
17～18	答え B
19～20	短い繰り返し A
21	休み 相談する時間
22～23	変化 A・Bともに

(6) 指導と評価の計画

次	時	○目標	・学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価方法等	教材
第一 次		ねらい：いろいろなわらべうたを知り、楽しく遊びながら歌う。			
	1	○いろいろなわらべうたを知り、遊んだり歌ったりする。 ・CDや指導者の範唱を聴いて歌を覚える。 ・指導者の動きを見ながら遊び方を覚える。		◇始めはルールを守りみんなで音楽に合わせて動きを揃えられるようにする。 ◇慣れてきたら木魚のリズムに合わせるようにする。 ☆歌唱中の表情や動きの観察 ・わらべうたに興味・関心を持ち、友達と楽しく活動してい	奈良の大仏さん ろうそくのしん巻き いもむしころころ

<p>2</p>	<p>○おうちの人から聞いてきたわらべうたを紹介し合う。 ・友達の発表を聞き、みんなでまねて遊んだり歌ったりする。 ・特に面白かった遊びをグループで行う。</p>	<p>るか。 ◇友達や指導者の動きをまねて、身体表現をさせる。 ☆身体表現中の表情や動きの観察 ・テンポを合わせて身体表現の仕方を工夫しているか。</p>	
<p>ねらい：わらべうたの中にある「反復」や「問いと答え」の仕組みを聴き取って、その面白さを感じながら楽しく表現する。</p>			
<p>3</p>	<p>○CDを聴き、「あんたがたどこさ」の中にある「くりかえし」や「といかけとおへんじ」に気付く。 ・音楽を聴いて気付いたことを発表する。 ・「あんたがたどこさ」の歌詞を読んで<といかけ>と<おへんじ>に歌詞カードを分ける。 ・<くりかえし>の部分を見付ける。 ・二つのグループに分かれて、歌い合わせる。</p>	<p>◇歌詞に注目させ、二つの組のやりとりを聴き取らせる。 ☆鑑賞中の発言等 ・「反復」、「問いと答え」の仕組みに気付いているか。 ◇聴くだけではつかみ切れないところは、歌詞をゆっくり読み聞かせる。 ☆歌唱中の聴取 ・歌詞を手掛かりにして「反復」や「問いと答え」の仕組みを感じ取り、その特徴を生かして歌っているか。</p>	<p>あんたがたどこさ</p>
	<p>○CDを聴き、「花いちもんめ」のふしの中にある<くりかえし>や<といかけ>と<おへん</p>	<p>◇歌詞を手掛かりにして、フレーズのまとまりとして聴き取</p>	

4	<p>じ>を感じ取って、身体で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めのふしの「くりかえし」が出てきたら手を上げる。 ・「といかけとおへんじ」の部分を感じ取って、問いかけているA組=左手、答えているB組=右手をあげて表す。 ・歌詞カードをA<といかけ>とB<おへんじ>に分けて黒板に貼る。 ・二つのグループに分かれて交互に歌う。 	<p>るように助言する。</p> <p>◇「反復」や「問いと答え」を聴き分けることが難しいところは、取り出してゆっくりと歌って聴かせる。</p> <p>☆鑑賞中の身体表現の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「反復」、「問いと答え」の仕組みの面白さを感じ取って聴いているか。 <p>◇A<といかけ>とB<おへんじ>の違いに重点をおき、歌い方を工夫させる。</p> <p>☆歌唱中の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「反復」、「問いと答え」の仕組みを感じ取って、遊び方や歌い方を工夫している。 	花いちもんめ
---	---	--	--------

[A] <といかけ>

[B] <おへんじ>

シン ケン ポン

○授業で習ったわらべうたの中から、みんなで遊ぶことのできるもの、楽しかったものを選び、遊び方を工夫して発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良の大仏さん」「あんたがたどこさ」「花いちもんめ」の中から1曲を選んで曲ごとに分かれ、友達と協力して遊び方を考える。 	<p>◇「反復」や「問いと答え」の特徴を生かした遊び方を考えるように助言する。</p> <p>☆グループ活動中の発言等や表情の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「反復」や「問いと答え」の仕組みを感じ取って楽しく遊んだり歌ったりしている 	奈良の大仏さん
--	---	--	---------

5	<p>・グループごとの考えを発表して、みんなで遊びながら歌う。</p> 	<p>か。 ☆発表中の歌い方や身体表現の様子の観察</p> <p>・拍の流れやフレーズのまとまりを感じて身体表現をしながら歌っている。</p> 	<p>あ ん た が た ど こ さ 花 い ち も ん め</p>
---	---	--	---

◆ 第4学年の指導例

(1) 題材

歌詞の情景を思い浮かべながら歌おう (全3時間)

(2) 題材について

奈良県には、奈良公園や吉野山、百人一首にもうたわれる竜田川など、もみじの名所が多く、児童が学校内外の活動で、紅葉に彩られた美しい風景に出会う機会は少なくない。

歌唱共通教材である「もみじ」は、秋の美しい自然の風景を歌ったものである。この曲が、郷土の風景と児童期の思い出をつなぐ、心の歌となるであろう。

指導に当たっては、地域や県内などの身近な紅葉の写真や映像を用意し、その情景を思い浮かべながら、まず歌詞をしっかりと味わって斉唱させ、その後、二部合唱へと発展させる。

この合唱曲は、前半が輪唱のような面白さを、後半が3度の響きの美しさを味わえる構成になっている。それぞれの特徴を感じ取らせるとともに、曲想に合った表現の工夫を考えさせたい。また、独唱、児童合唱、大人の声の合唱など、異なった演奏表現による「もみじ」を聴かせることにより、今後の音楽経験をより豊かなものとするきっかけとしたい。

(3) 目標

- ・歌詞の情景を想像しながらのびのびと歌う。
- ・旋律の重なり方の違いを感じ取り、それを生かして表現する。
- ・演奏形態の違いによるそれぞれのよさを感じ取る。

(4) 内容について

本題材は、〔第3学年及び第4学年〕の内容 A表現(1)のイ、エとB鑑賞(1)のイ及びウを、主に〔共通事項〕の事項ア(ア)の「強弱」、「音の重なり」等の要素によって関連付けることを図った取組である。また〔共通事項〕の事項イより、ブレス、四分休符、タイについても取り扱う。

(5) 教材について

- ・「もみじ」 文部省唱歌／高野辰之 作詞／岡野貞一 作曲／中野義見 編曲
- ・児童合唱 ピアノ伴奏 による「もみじ」(範唱CD)
- ・ソプラノ独唱 ピアノ伴奏 による「もみじ」(CDまたはDVD)
- ・女声合唱 ピアノ伴奏 による「もみじ」(CDまたはDVD)

(6) 指導と評価の計画

次	時	○目標 ・学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価方法等	教材
ねらい：歌詞のようすを思い浮かべながら歌う。				
第一 次	1	○主旋律を覚える。 ・範唱のCDを聴き、曲の感じをつかむ。 ・2小節ずつ、教員の範唱に続けて歌う。 ・歌詞の内容を理解する。 ・全員で主旋律を歌う。	◇紅葉の写真や映像を見せながら、CDを聴かせる。 ◇歌う姿勢に気を付けさせる。 ◇難しい言葉には補足説明する。 ◇情景を思い浮かべるように指示する。 ☆演奏表現 ・歌詞の情景を思い浮かべ、旋律の美しさを味わいながら歌おうとしているか。	もみじ ・範唱 CD D
		○曲想に応じた表現を工夫する。 ・曲が盛り上がる箇所はどこかを考え発表する。 ・どのように歌えばよいかを考え発表する。	◇どこをどのように歌いたいか、理由も併せて述べさせる。 ◇ここでは強さや奏法を言葉で表現させるため、発言の板書ではまだ記号を用いないようにする。 ◇言葉での表現が難しいときは、歌って示させる。 ◇美しい発音の生み出す効果に気付かせる。 ☆発言及び歌唱中の聴取 ・歌詞の情景に合ったなめらかな表現や、盛り上がる箇所の強弱表現ができているか。	
		○副次的旋律を覚える。	◇主旋律に対する副次的旋律の動き	

	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱のCDを聴き、曲の感じをつかむ。 ・ 輪唱のように遅れて始まり、途中から同じリズムで上下に分かれることに気付く。 ・ 2小節ずつ、教員の範唱に続けて歌う。 <p>○互いの声を聴き合いながら、合わせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つのパートに分かれて合唱する。 <p>○歌詞や曲想に合った表現を工夫して合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書やプリントに強弱記号を書き入れる。 	<p>に着目させる。</p> <p>◇同じ旋律で始まることを気付かせる。</p> <p>◇ブレスの位置、四分休符とタイの効果を感じ取らせる。</p> <p>◇9小節目1拍目の3度の響きを十分に味わわせる。</p> <p>◇適宜パート練習を指示する。</p> <p>☆発言及び歌唱中の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いのパートの声を聴きながら、音の重なり方を感じ取っているか。 <p>◇副次的旋律の強弱も考えさせたいので記号を当てはめさせる。</p> <p>☆演奏、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の重なり方、強弱の表現に気を付けながらなめらかに歌っているか。 ・ 響きのある声でのびのびと歌っているか。 	
ねらい：いろいろな形態の演奏を聴いて、それぞれのよさを感じ取る。				
第二次	3	<p>○演奏形態の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱CD、ソプラノ独唱、大人の女声合唱による「もみじ」の演奏を聴き比べ、それぞれよいと思ったことを発表する。 ・ 一番気に入った「もみじ」について、よかった点を学習シートに書き込む。 ・ 友達の意見を聞いて、考えが変わったことがあれば書き込む。 	<p>◇編曲の違いを示す。</p> <p>◇歌手や指揮者になったつもりで聴くよう指示する。</p> <p>◇どうしてよいと思ったのか、理由も書くように指示する。</p> <p>☆発言、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの演奏のよさを感じ取り、自分にとって価値のあるものとして聴いているか。 	<p>もみじのCD</p> <p>・</p> <p>D</p> <p>V</p> <p>D</p>

◆ 第6学年の指導例

(1) 題材

雅楽を味わおう (全6時間)

(2) 題材について

奈良県には数多くの神社仏閣があり、大陸との交流を物語る遺跡も数多く残っている。また、大陸から伝わり日本で花開いた伝統的な文化も、子どもたちの身近なところで脈々と受け継がれてきている。県内には春と秋にお祭りが催される地域も多く、子どもたちは太鼓をたたいたり、御輿みこしをかついだりと様々な行事を楽しみながら、そこで演奏されるお囃子はやしや民謡等に自然な形で触れている。

しかし実際に歌ったり演奏したりするのは、楽譜のある西洋の音楽を基にした楽曲がほとんどである。まして仏教の伝来と共に伝わったとされる雅楽のように、口伝による楽曲に出会う機会は少ない。また、日本の伝統的な音楽のもつ独特な拍子感、リズム、旋律、音の響き等の特徴を感じて演奏した経験はほとんどないと言ってもよい。

そこで雅楽を聴いたり、雅楽で使われる楽器に触れたり、雅楽を演奏したりする活動を通して、本県とも深いつながりのある雅楽に親しみをもたせたいと考え、この題材を設定した。

指導に当たっては、DVDで雅楽の演奏を鑑賞した後、身近な楽器を使って雅楽の旋律を演奏したり、自然の音を基にして作った旋律を演奏に加えたりして、自分なりの感覚で雅楽を捉えさせたい。また指揮者がいなくても、友達と呼吸や目線を合わせて演奏できることの楽しさを味わわせたい。さらに、地域の神社の雅楽部をゲストティーチャーとして招き、実際の演奏を聴いたり楽器に触れたりする機会を設けることで、より深く雅楽の特徴を感じ取り、雅楽に対する親しみを深めさせたいと考える。

(3) 目標

- ・雅楽に関心をもち、楽器の音色や曲想の特徴を感じ取って聴いたり演奏したりする。
- ・聴き取った自然の音を基にして、雅楽の雰囲気合った音楽づくりを工夫する。

(4) 内容について

本題材は、〔第5学年及び第6学年〕の内容 A表現(2)のウ、(3)のイとB鑑賞(1)のア及びウを、〔共通事項〕の事項アの(ア)「音色」、「リズム」、「速度」、「旋律」、(イ)の「反復」、「変化」などによって関連付けることを図った取組である。

(5) 教材について

- ・DVD 「雅楽 越天楽」
- ・越天楽変奏曲 日本古謡／編曲 東儀秀樹

(6) 指導と評価の計画

次	時	○目標	・学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価のポイント	教材	
		ねらい：雅楽の楽器の響きや旋律の特徴を感じ取って聴いたり、演奏したりする。				
		○雅楽の楽器の名前や音色、音の出し方を知る。 ・DVDの「雅楽 越天楽」を鑑賞する。		◇雅楽独特の奏法やリズム、速度に気付くように、聴き取るポイントを示す。 ・西洋の音楽のように拍子を取って		

第一
次

1

- ・楽器の紹介の部分を見る。
- ・ワークシートを書く。

- みる。
- ・音楽の始まり方はそろっているかどうか。
- ・それぞれの楽器の音はどのような感じがするか。

雅楽ってなに？

年 組 _____

1. 雅楽のさかんだった時代 _____ 時代 ~ _____ 時代

2. 楽器について

<管楽器>

笙 _____

ひりき _____ } ()

竜笛 _____

<弦楽器> 琵琶 _____

楽 箏 _____

楽 箏 _____

<打楽器> 鞆鼓 _____

鈎太鼓 _____

鉦鼓 _____

3. 音さがし イメージ(言葉・図形...)

※

天	
空	
地	

☆発言・ワークシート

- ・雅楽に関心をもって聴いているか。
- ・楽器の音色の特色を味わいながら聴いているか。

◇身近な楽器で雅楽の旋律を演奏するには、どのような楽器が適当かを考えさせる。

2

- 「越天楽変奏曲」を演奏する。
- ・班に分かれ、担当する楽器を決める。
- ひりき
 - ・箏 箏 . . . リコーダー
 - しょう
 - ・笙 . . . キーボード
 - ・鈎り鐘 . . . トライアングル
 - かつこ
 - ・鞆鼓 . . . 小太鼓
 - ・太鼓 . . . 大太鼓
- ・班で協力して練習に取り組む。



- ◇身近な楽器で雅楽の雰囲気を出す演奏方法を工夫させる。
- ・テンポ、音の出し始め、強弱など前時のDVDを思い出し、まねてみるように指示する。
- ☆演奏表現
- ・それぞれの楽器の奏法や音色に気を付けて演奏しているか。

越天楽変奏曲

日本古謡 / 編曲 東儀秀樹 6年 組 ()

DVD 「雅楽 越天楽」

越天楽変奏曲

ねらい：雅楽に合ったつなぎのふしを作る。	
第二次	<p>3</p> <p>○地域の神社等へ行き自然の音を見付ける。 ○聴き取った音を言葉で表現する。</p> <p>(例) ほぼ音 さわ ざわ ざわ 水の音 じょ じょ じゃ じゃ じょ 足音 じょ . . . じょ じょ</p>
4	<p>○聴き取った音を基に音楽づくりをする。 ・各班で4小節のふしをいくつか作る。 ・各班で二つの以上のふしを重ねて、つなぎのふしを完成させる。</p> <p>◇自然の音を擬音化するように指示する。音の大小、高低などの表し方を工夫させる。児童の実態に応じて例示してもよい。</p> <p>☆行動観察・ワークシート ・進んで音を見付けたり、集めたりしようとしているか。</p>
5	<p>○作ったふしを前奏や間奏にして越天楽変奏曲を演奏する。 ・各班のつなぎのふしの工夫を聴き合う。 ・つなぎのふしを入れながら全曲を通して演奏する。</p> <p>◇ミソラシレミの音階を使って旋律を作るよう指示する。 ◇リズムや音の強さに気を付けて、イメージにあった音楽づくりをするよう指示する。 ◇雅楽の雰囲気合う音楽になっているかを互いに聴き合わさせる。</p> <p>☆発言・演奏表現 ・雅楽の雰囲気を感じ取って、音楽づくりを工夫しているか。</p>
 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">自然の音をもとにした音楽づくり</p> <p style="text-align: center;">前奏</p> <p>(水 <small>ホボ</small>) <small>てっさん</small></p> <p>(鳥 <small>リョーダ</small>) <small>こ</small></p> <p>(の音 <small>カバサ</small>)</p>  </div>	
ねらい：雅楽を見て、聴いて、触れて味わう。	

第 三 次	6	<p>○ゲストティーチャーによる雅楽演奏を鑑賞する。</p> <p>○実際の演奏にふれ、今まで経験してきた音楽との違いや感じ取ったことなどを鑑賞文にまとめる。</p>	<p>◇身近な楽器で演奏したものとの曲想の違いに着目させ、雅楽独特の雰囲気味わわせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度、リズム、旋律 <p style="text-align: right;">など</p> <p>◇鑑賞文をまとめさせる際は、児童にポイントを明示する。</p> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の音色やリズムなどについて、どのように感じたか。 ・担任の先生へ雅楽を紹介する文を書こう。 ・雅楽の生演奏を聴いた感動をゲストティーチャーに伝えるためのお礼の手紙を書こう。 <p style="text-align: right;">など</p> <p>☆鑑賞文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の速度、リズム、旋律の特徴を感じ取り、そのよさを味わっているか。
-------------	---	---	--

※DVDの中で、笙は天の音、箏箏は空の音、竜笛は地の音を表し、合わせて宇宙を表現していると言われる。音さがしの活動では、天、空、地のイメージに合う音を見付け出し、言葉で表現させる。

— 作成委員 —

池ノ内 恵子	上牧町立上牧第三小学校	校長
登 敦子	天理市立櫟本小学校	教諭
泰山 郁子	桜井市立三輪小学校	教諭
金子 博和	奈良県立教育研究所	研究指導主事
山中 充子	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)

